

このスポット・おすすめ!

沖縄古民家で味わう韓国の家庭の味
韓国料理 OKI 123



手間ひまかけて仕込んだ看板メニューが3種類
真心を込めた料理の形容詞として「沖繩」は「いいーあんだー(二手の匙)」という言葉がよく使われますが、今回はいわほその韓国版、手間ひまかけて丁寧に仕込んだ韓国家庭料理が楽しめるお店の紹介です。
店主の羅明珍(シムミンジン)さんはソウル出身で、結婚を機に沖繩へ移り住んで12年目。もともと料理は本職ではなく、身近な友人知人に故郷の味を振る舞う程度でしたが、交友の広がりにともなって評判も広まり「毎日でも食いたい。ぜひお店を出して」との声が続々。築年の古い沖繩古民家を借りて改修し、今年3月にお店をオープンしました。
メニューは少数精鋭の本格派ぞろい。仕込みの手間を惜しまず、本物だけを提供したいから厳選に厳選を重ね、ごはんの上には9種類のあえ物を彩りよく盛り付けた「ピビンバ」、参鶏湯と並ぶ韓国を代表する鶏煮込みスープ「タックコムタン」、醤油ベースで甘口の味をつけた薄切りの牛肉を野菜と一緒に焼いた「プルコギ丼」の3種類を看板料理に選定。食材はできるだけ沖繩県産を使用し、羅さんが幼い頃から口にしていた家庭の味をベースにひとひまの愛情を加えて全体を調えました。
「わが家でも毎日食べている安心安全な無添加の味。お店のPRするのにはよっこりしています。おいしいだけでなく少々自信があります」と羅さん。誰かを幸せにした住所がそのまま店名になっているから、地図で探すのも簡単。ほかに調べるとこのメニューがデイクワアトOKI123で。

住所 / 読谷村大木 123
電話 / 090-2716-7932
時間 / 11:30~15:00
17:00~20:30
休み / 月・火・土・日曜日
駐車 / あり
【おもなメニュー】
・ピビンバ.....1000円
・タックコムタン.....1000円
・プルコギ丼.....1000円
・チャプチェ.....500円
・トッポギ.....500円
・ホットク.....400円



読者プレゼント

このスポット・おすすめコーナーで紹介の『韓国料理 OKI 123』で使える
2,000円分 お食事券
3名様



- 7月号当選者 前号の答え(三輪車)
- ★松田 由紀さん(読谷村在住)
 - ★宮内 香奈恵さん(読谷村在住)
 - ★小淵 富枝さん(読谷村在住)

ワイワイ広場

読者プレゼント応募方法

宛先 読谷村字伊良智237-1 ウィンズ『広報誌係』

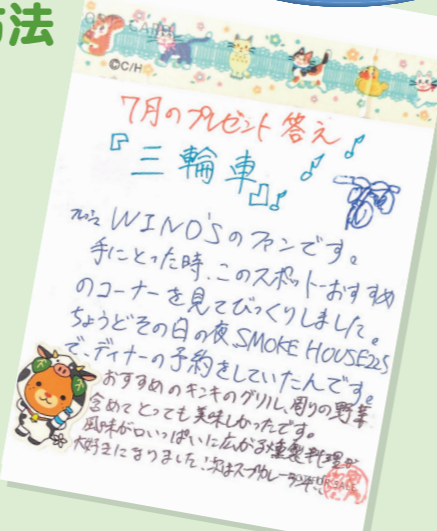
①住所 ②氏名
③年齢 ④職業
⑤電話番号

⑥なぞなぞの答え
⑦ご意見
ご感想

応募者の中から抽選で、読者プレゼントを進呈致します。どしどしご応募下さい!

締め切り 2020年8月20日消印有効
「当選者は次号(Vol.192)にて発表致します」

『Freshウインズ』は、建築でお手伝いをさせて頂いた施主様をはじめ、地域にお住まいの方など、ご縁をいただいた皆様にご挨拶しております。諸事情により配布不要となった際は大変お手数ですが、その旨ご連絡下さい。(ウインズ広報誌係)



Fresh Winds

人と人のつながりを大切に...池原建設が大切なお客様にお送りする手作り広報誌



住宅のメンテナンスや補修等のご相談は、お気軽にスタッフへお声掛け下さい!

0120-229-512 ウィンズ 池原建設 検索

読谷村思い合ち手作りマスク1000人プロジェクト

読谷村在住の中村喜美枝さん親子から、300枚の手作りマスクの寄贈を受けたことを機にスタートしたプロジェクト。有志の皆さんから届いた手作り・市販マスクを、読谷村内で必要とする方や施設へ提供します。



受付先: 読谷村役場 1階 福祉課 tel. 098-982-9209

夏です! 私たちの事情などお構いなしに季節は巡り、8月にもなれば太陽は一段とギラつきを増し、顔や体をジリジリと焼き付けます。今年は閉じこもりがちだからこそ、意識すると「夏」の圧倒的なパワーが余計に強く感じられます。

今年の旧盆期間は8月31日(月)から9月2日(水)まで。





身近なところから「自分が何ができるか」を考え、実践する 手作りマスク1400枚を寄贈した中村喜美枝さんの思い



紙面を通して読者の皆さんへ、喜美枝さんから伝言をあずかりました。
「私の考えに賛同し、今まで支えてくださった多くの方々に感謝しつつ、今後ともご指導・ご鞭撻をよろしくお願い申し上げます」

高齢者や子どもなど、本当に必要な人や施設にマスクを届けるために、読谷村が今年4月に立ち上げた「読谷村想い合い(うむいあわち)手作りマスク1000人プロジェクト」の発端は、読谷村座喜味に住む中村喜美枝さん親子から、オリジナルマスク300枚が村へ寄贈されたことでした。「村内でボランティア活動に携わっているようになって十数年。慢性的なマスク不足の事態を受け、自分が何ができるかを考え実践することは、私の中では自然な流れでした」と語る喜美枝さんを訪ね、詳しく話を伺いました。

読谷村や近隣自治体へ計1400枚を寄贈 1カ月と1週間で1400枚

これは喜美枝さん親子が今年3月から製作した布マスクの数です。喜美枝さんが起こした図面に沿って長男の妻のさなえさんと一緒に布を裁断し、縫製も2人で担当。若い頃



自宅の作業スペースには、県内外か取り寄せたさまざまな種類の生地がズラリ



手工芸の世界に飛び込んだのは30代の頃。ミシンに向かうと目の色が変わります

お隣の嘉手納町と恩納村へは各200枚をそれぞれ寄贈しました。



3月31日に座喜味地区へ245枚を寄贈

靴作りなど手工芸に精通 趣味が高じてプロの域に

若い頃からものづくりの世界に興味があり、本業の傍ら本格的に靴や帽子作りを始めたのは30代の頃。手作りバッグ作家で知られる宮城信子さんに師事し、熱心に手ほどきを受け腕を磨きました。その道の魅力を知れば知るほどこだわりも増し、目的に応じて高度な縫製が可能でプロ用のミシンを導入し、目当ての材料を仕入れるために内地へ赴くこともしばしば。やがて自ら設計図を描いてオリジナルのデザインを考案するようになり、オー



喜美枝さんが製作したオリジナルの手作りバッグと三線のティーガー(胴巻き)

製作を重ねるうちに、「今までにないマスクを、遊び心のある新しいマスクを」志向するようになるのは、作り手

ダーメイド製品の販売も始めました。見た目の美しさ以上に実用性を重視し、「製作物は手元に残さない主義だから、撮影用の商品があまりなくて」と語る言葉にプロとしての気概が垣間見えます。こうしたハンドメイドの技術と経験が今回のマスク作りに存分に生かされたことは言うまでもありません。布マスクの材料不足を回避できたのは、生地やガーゼ、ゴムなどの仕入れルートを熟知していたからこそ。口元や頬のカーブを意識したデザインは適度なフィット感があり、着心地も抜群です。

の性でしょう。例えば「入院中の子どもたちが少しでも明るい気分になれるように」と試作したキャラクター柄のマスクは、相談した医師からも好評。「ベトナムのマスクは鼻の部分に独特のカーブがある」と知るや早速図面におこし、バリコレに登場したマスク姿のモデルを見て「これからは日常着の一つになる」とファッション性にも注目しています。



着けるだけで幸せな気分になりそうなデザインマスク。生地選びも楽しくなります

原動力は感謝の気持ち 身近な人にマスクをおすそ分け

過酷さを増す医療現場のニューズや周囲の様子を見て、喜美枝さんが自然とマスク作りを思い立った背景にあるのは、趣味でありライフ

ワークでもあるハンドメイドの技術に加えて、身近な場所でも長年培ってきたボランティアの心でした。ボランティア(volunteer)と聞くと日本ではどうしても「無償」の部分が強調されがちですが、英語本来の語義では「自発性」に重点が置かれ、自らの意志により公共性の高い活動へ参加する人を指します。その点でいえば喜美枝さんはまさに自発性の塊であり、趣味が高じてプロの域に達した靴・帽子作りと同様に、自学自習で沖縄の伝統料理にも精通しています。また「読谷に遊びに来てくれた外国人と十分にコミュニケーションを取れなかったことが、ものすごく悔しかったから」と67歳からマンツーマンで英会話を始めるなど、行動力旺盛です。



英会話のレッスン風景。何事も始めるのに遅すぎることはありません!

だから喜美枝さんが起こした今回のアクションは、「誰かのため」という利他的なものがある以上に、私たちの誰もが備えている「相手を思いやる気持ち」がちょっぴり強めに発露したものといえそうです。「私はこの年になるまでいろいろな人に支えられ、どうにか生きてくることができました。だから身近な人たちに、自分ができる範囲で恩返しをしたいと思うのは当たり前のこと。私たちが手作りしたマスクが、今までお世話になった人たちにとって少しでも役に立てば本望です。」



「今までの経験がすべてマスク作りに集約され生かされたような、不思議な気分です」と喜美枝さん

